

カマガミサマに見守られて



仙台市消防局長 千葉 弘樹

令和7年2月26日に岩手県大船渡市で発生した大規模林野火災により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。また、一日も早く平穏な生活を取り戻されることを心から願っております。

今回の火災では、長期間にわたる乾燥状態に加え、折からの強風による延焼範囲の拡大等から、消防庁長官より迅速に緊急消防援助隊の出動の求めがありました。全国15都道県から2,000名以上の隊員が派遣され、岩手県内の応援を含めると最大時で約2,200名が消火活動にあたりました。

現場は三陸リアス海岸特有の急峻な地形に加え、強風による飛び火や延焼方向の変化、不足する水利、さらには時折発生する火災旋風や輻射熱と、極めて過酷な環境でしたが、そうした中でも最前線で果敢に戦い続けた全ての隊員に改めて深い敬意を表します。

東北地方ではこれまでも度々林野火災が発生しており、特に消防力が充実していない時代においては、住民の火災を恐れる気持ちは相当のものであったろうと推察します。見かけることが少なくなったものの、宮城県から岩手県南部では古くから火の禍を避けるため、台所やかまどの上に「カマガミサマ」を祀る風習があり、私の勤務する局長室にも地元消防団長から寄贈された一体のカマガミサマが飾られています。土製や木製の面に憤怒の表情を刻み、かまどを守る火の神としてだけでなく、家全体の守り神として人々の生活に根付いてきたものです。出勤の際には、このカマガミサマと目を合わせ、今日も市民の安全を守るため適切な判断と行動ができるように、そして何よりも現場で活動する隊員たちが無事に任務を終えられるようにと、心の中で祈ることが局長就任後の日課となっています。



「カマガミサマ」

さて、令和7年度、仙台市では「ひとが輝く舞台となるまち」を目指し、安全・安心の確保を基盤とした様々な施策に取り組みます。まず、大規模地震による電気火災対策として、包括連携を結ぶ民間企業等とのプラットフォームを構築しつつ、感震ブレーカーの設置補助や普及啓発事業を推進し、住宅火災のリスク軽減を図ります。

また、救急需要の増大への対応として、新たな救急情報システムの導入に加えマイナ救急の全隊での実証を進めるほか、救急病院から後方病院への転院を促進することで救急病院の病床の確保を図り、応需率の改善を目指す仙台市救急医療病院間連携推進事業を推進するなど、総合的救急需要対策事業を引き続き展開いたします。

さらに、昨年4月に本市で発生したメガソーラー火災や、能登半島地震、大規模林野火災などの事例を踏まえ、走破性の高い車両の計画的導入にも着手し機動力を強化するなど、大規模特殊災害対策にも取り組んでまいります。

高齢化の進展、住民意識の変化、さらには年々激甚化・大規模化する災害に対応するため、消防力の高度化は避けて通ることはできません。私たちはこれからも、より効果的な消防・救急体制を構築し、市民の生命と財産を守る使命を果たさねばならないと考えます。「消防の動き」という言葉のとおり、消防は常に変化し続けるものです。その変化に対応するためには、私たち自身が果敢に挑戦し、新たな知識や技術を取り入れていくことが不可欠です。

これからも、カマガミサマに見守られながら、現場の最前線で奮闘する隊員たちの安全を第一に考え、市民の期待に応えられる消防を目指し、不断の努力を続けてまいります。